

福 祉 広 報

発行所
 社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会
 理事長 里 中 亨
 〒594-0031 大阪府和泉市伏屋町5丁目10-11
 電話 (0725) 51-7913 番(代)
 FAX (0725) 51-7914 番
 メールアドレス honbu@daisyokyo.or.jp
 ホームページ http://www.daisyokyo.or.jp/

令和2(2020)年知事年頭所感

大阪府知事 吉村 洋文



新年あけましておめでとうございます。

昨年4月の知事就任以降、大阪市長としての経験も活かし、成長をさらに加速させるとともに、大阪の成長が府民の皆さまの豊かさにつながるよう、府政を前に進めてまいりました。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される今年は、大阪にとっても未来を決めるターニングポイントです。日本の将来に大きなインパクトを与える2025年大阪・関西万博や統合型リゾート(IR)の準備に万全を期さなければなりません。また、新たな大阪の都市の形を問う大阪都構想について、年内の住民投票をめざしています。

2025年万博を、世界中の人が驚く、未来社会を先取りしワクワクする万博にするために、準備を本格化させます。万博のテーマである「いのち輝く未来社会」は、「誰ひとり取り残さない持続可能な世界の実現」をめざす、まさにSDGsが達成された社会です。障がいのある人もない人も、一人ひとりが尊重され、幸せに生きることが出来る社会の実現を目指してまいります。

今年6月には、大阪府の障がい者の相談支援・意思疎通支援・手話言語の習得機会の確保などの総合的な支援を実施する拠点施設として、大阪市東成区の森之宮に「府立福祉情報コミュニケーションセンター」を開設します。今後はこの施設を拠点として、福祉関連の情報提供やコミュニケーション支援など、障がいのある方々の活動を支える施策を着実に進めてまいります。

また近年、地球温暖化といった気候変動の影響により、災害が激甚化しており、昨年も度重なる台風などにより、全国で大きな被害が発生しました。いつ起こるか分からない災害に備え、着実にハード対策を進めるとともに、昨年導入した災害モード宣言の運用などのソフト対策を組み合わせ、災害対応力を高めてまいります。

2025年、そして、その先の将来に向けて、「世界の中で躍動し、成長し続ける大阪」の実現をめざしてまいります。皆さまの一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆さまにとって実りあるすばらしい年となりますようお祈りいたします。

新年のご挨拶

大阪府議会議長 三田 勝久



新年明けましておめでとうございます。皆様方には、清々しく新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

社会福祉法人大阪障害者自立支援協会におかれましては、里中理事長をはじめ役員並びに関係の皆様との並々ならぬ御熱意とたゆまぬ御努力により、障がい者の自立と社会参加の促進に多大な御貢献を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げます。

私ども大阪府議会といたしましても、自立と共生の理念の下で、府民の皆様の人権が尊重され、生き生きと活躍できる社会の実現に向けた取り組みを進めてまいりますので、皆様におかれましても、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年6月、我が国初のG20サミットが大阪で開催されました。関係者の御努力により、各国首脳をはじめ、海外の政府関係者やメディアなど来阪された多くの方々に、大阪・関西のポテンシャルを存分に感じていただけたと確信しております。

また、7月には、「百舌鳥・古市古墳群」が大阪初となる世界文化遺産に登録されたほか、9～10月には、アジア初となるラグビーワールドカップ2019が開催され、大阪でも東大阪市花園ラグビー場において熱戦が繰り広げられるなど、昨年は、大阪・関西が明るい話題に沸き立ち、世界中から大いに注目を集めた、まさに、大阪の「成長・発展」を強く実感できた年であったと思っております。

今後も、2020年東京オリンピック・パラリンピックや来年開催のワールドマスターズゲームズ2021関西などの機会を活かして、大阪・関西の魅力を広く世界へ発信して、2025年大阪・関西万博の成功に繋げていきたいと決意を新たにしております。

年頭にあたり、社会福祉法人大阪障害者自立支援協会の益々の御発展と皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。新年の御挨拶といたします。

新年のごあいさつ

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 会長 井手之上 優



新年、あけましておめでとうございます。

皆さまには健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから本会の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、国の社会保障審議会福祉部会では地域共生社会の実現に向けた検討がすすめられています。

ここでは、断らない相談支援や多様な社会参加や就労支援、権利擁護の支援、地域での支えあう関係の育成支援のあり方などが議論されており、既存事業や仕組みを改善するとともに、新たな施策・事業を展開して、誰もが安心して生きがいをもって生活できるまちづくりの実現を目指しています。

しかし、その一方で、子どもの引きこもりを背景にした事件や津久井やまゆり園の事件、障がい者雇用率に関する問題や職場等での虐待問題、公共交通機関での相次ぐ事故、乗車拒否問題など、さまざまな課題が山積しており、各種の法整備とともに、共生社会の理念が広く国民に浸透していくように、関係者とともに着実に取り組んでいかねばなりません。

さまざまな生きづらさや生活の困難についての正しい理解を深め、偏見や差別をなくし、国民一人ひとりが我が事として支え合うまちづくりをすすめていく必要があります。

貴協会におかれては、多くの団体との連携・協働のもと、障がいのある方々の社会参加と自立をすすめるため、当事者の声を広く社会に発信する活動を長年にわたり熱心に進められており、心から敬意を表する次第です。

当会におきましても、「福祉と共生のまちづくり」の理念、「出かける・つなぐ・創る」のキャッチフレーズのもと、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、貴協会をはじめ多くの福祉団体の方々とともに大阪の地域福祉の推進を大いに努めてまいりたいと考えております。

府民の誰もが平和で、安心・安全に暮らせるよう、皆様方のご理解となお一層のご支援をお願い申しあげまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ

一般財団法人 大阪府地域福祉推進財団 理事長 高崎 博



新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和になって初めての新年を健やかにお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この2020東京大会は「スポーツには世界と未来を変える力がある」をビジョンとして、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、「そして、未来につなげよう（未来への継承）」の3つをコンセプトに実施されます。世界の国や地域から一流のアスリートが集い、最高のパフォーマンスにより、世界の人々に「感動」と「夢」を与えてもらえることと大いに期待するとともに、楽しみにしています。

また、世界の方々を最高の「おもてなし」で歓迎し、国際的な交流がより一層発展することを願います。

貴協会では、「大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ）大阪」において、障がい者はもとより、府民誰もがスポーツに親しみ、交流を深めることができるよう生涯スポーツから競技スポーツまでの幅広いスポーツの振興に力を注がれております。過去にはここを練習拠点にされパラリンピックに出場された方、また東京大会の有力候補者もおられると伺っており、今後の活動に期待しております。

また、障がい者の自立や社会参加を進めるため、「大阪ワークセンター」の運営や「大阪府ITステーション」での就労支援事業の受託実施、さらには、大阪の秋の恒例行事ともなっている「共に生きる障がい者展」の開催による府民への啓発活動など、多様な事業をきめ細かく展開され、大きな成果を収められていることに対しまして、心より敬意を表します。

今後とも、障がい者が地域で安心して生きがいを持って暮らせるよう「生活」や「就労」等に対する支援や府民への啓発など、貴協会の役割はますます重要になるものと思います。

結びに、貴協会の益々のご発展を祈念いたしますとともに、皆様方にとりまして、令和の世が佳き時代となりますことを心よりお祈り申し上げます。

新年のごあいさつ

一般財団法人 大阪市身体障害者団体協議会 会長 手嶋 勇一



令和と元号が改まって初めての年始となりますが、皆様方にはお健やかに新年をお迎えなられたこととお慶び申し上げます。

また、平素は皆様方より本会の活動に多大なご理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、現在国におきましては、「障害者差別解消法」の改正に向けての検討が、内閣府が設置した「障害者政策委員会」でなされております。私どもといたしましては、今は努力義務となっている民間事業者の合理的配慮の義務化や相談窓口の体制などの見直しを重視しつつ、当事者団体として地域の思いを国に

伝えていくとともに、その動向を注視していきたいと考えております。

同時に、改正障害者雇用促進法がこの4月から施行されるに当たって、同法成立時に採択された「雇用施策と福祉施策の一体的展開の推進を審議できる体制」を整備して、障がい者のため通勤や職場での支援のあり方を求める付帯決議による審議が進み、「障がい者の雇用拡大から継続就労、そして安定就労へ」との私どもの願いが実現するよう、職場環境の改善や通勤時等での介助・介護に対する公的支援などを皆様と共に求めてまいります。

今年8月には東京パラリンピックがいよいよ開催されます。スポーツには障がいの有無は勿論、国籍や人種、宗派を超えて人々の心を一つにする力があります。

障がいに対する社会の関心が一層高まる中、時代の潮流を捉え、障がい当事者である私たち自身が、手を携えて障がい理解の発信者として地域の中でしっかりと啓発に取り組んでいくことが何より大切であると思っておりますので、どうかご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

年頭に当たりまして、貴会の益々ご発展と、本年が皆様方にとって幸多い年でありますようにご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶

一般財団法人 大阪府身体障害者福祉協会 会長 寺田 一男



新年明けましておめでとうございます

皆様方には輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は福祉協会の各事業が多くの方達にご支援を賜り大過無く終える事が出来ました事、心よりお礼申し上げます。

会長に任して色々な方達とお会いしお話をする機会を得て気付かなかった事の多い事に驚いているしいです。身体障害者福祉法が制定され今年で70年になります、70年の歴史の中で国内法及び条例等が著しく進み、特に国連の障害者権利条約の批准以降考え方や対応も大きく変わってまいりました。今年には障害者差別解消法が施行され3年が経過し見直しの年でもあります。差別の禁止と合理的配慮の提供が当たり前として市民に理解されるよう差別解消法を成長させなければならぬと思います。又、障害者災害対策が、特に要援護者には急務であろうかと思ひます。一日も早い災害ネットワークを望むものです。

結びに皆様方の今年一年のご健康とご多幸を祈念いたしております。

新年のごあいさつ

一般財団法人 大阪府視覚障害者福祉協会 会長 高橋 あい子



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、令和になって初めての新年を健やかに迎えるのこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会の事業の推進にご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

障害者差別解消法をはじめ、近年、法整備は進んでいるものの、視覚障害者の自立と社会参加は、相変わらず厳しいものがあります。本年6月には、森之宮に大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターがオープンする予定ですが、新センターが、私たち障害者の自立と社会参加の拠点となることを期待しています。

本年も、皆様方とともに、すべての障害者が地域で安心して自立することができるよう取り組んでまいりたいと存じます。終わりに、大阪障害者自立支援協会の皆様、本紙読者の皆様にとりまして、本年が実り多い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

新年のごあいさつ

公益社団法人 大阪聴力障害者協会 会長 大竹 浩司



あけましておめでとうございます。

昨年も多くの関係者からご協力やご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

元号が平成から令和に変わりました。平成時代の31年間を振り返ってみますと、画期的なのは2006(平成18)年に障害者権利条約(国連)が採択されたこと、国内では2011(平成23)年の障害者基本法改正で医学モデルでなく社会モデルにたった障害者支援への転換、2016(平成28)年4月施行の障害者差別解消法や改正障害者雇用促進法による「合理的配慮の提供」の義務化などがあげられると思います。

でも旧優生保護法によって障害者が蒙った被害状況を例にみてもわかるように、我が国の障害者に対する施策や支援、また障害者に対する社会の理解は長い間充分ではありませんでした。

社会モデルにしる合理的配慮にしるこれらは始まったばかりです。この新しい考え方を、生活で実際に感じる事ができるようにするには長い年月を要しますが、私たち障害者が力を合わせ、途切れることなく課題や問題に取り組んでいってこそ実現はできます。

障害者が安心して暮らせる街をめざして当会は前進してまいります。今年もよろしくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

社会福祉法人 大阪府肢体不自由者協会 理事長 道井 忠男



あけましておめでとうございます。令和になって初めての新年を迎えました。今年パラリンピックが開催されますが、世界各国の障害のある一流選手の活躍が多くの人に感銘を与えることと思います。ただ、すばらしいプレーに感動するだけでなく、パラリンピックを通じて、障害者に対する理解が進むことを心から期待しています。以前、ある大学で利用者と対話しながら自動運転できるAIを搭載した車いすを開発中との報道がありましたが、令和の時代には、AIやIoT技術の進歩が、障害者の生活をより便利に、より豊かにしていくと思います。そのこと自体は喜ばしい限りですが、障害者が暮らしやすい社会と言えるには、障害者への差別や偏見が解消されなければなりません。令和の時代こそ、障害者の人権が尊重され、障害者が普通に暮らせる、差別のない社会が実現するよう、当協会も微力ながら力を尽くしてまいりたいと、心新たにしているところです。

新年のごあいさつ

社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会 理事長 坂本 ヒロ子



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。テレビでも近年、障がい者のスポーツがとりあげられることが多くなりうれしく思っています。そのような中、「障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク」が2015年7月に組織され、今年2月から全国7か所で「障害者の文化芸術フェスティバル」が開催されます。また、大阪府でも2001年からビッグ・アイ等と連携しながら、文化芸術分野における障がい者の活動支援等に取り組んでおられ、それらの企画に参画し、発表の機会を得ることは、障がいのある人にとって喜びでもあり、楽しみでもあります。そのような場面、機会が身近な地域で展開され、社会の障がい理解がすすみ、障がいのある人が共生社会の一員として活躍できたらと思います。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

新年のご挨拶

一般社団法人 大阪脊髄損傷者協会 会長 羽藤 隆



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年文字通りオリンピック、パラリンピックの年です。障害者スポーツが社会に浸透し、すそ野を広げ、レベルアップに繋がることを願うものです。合わせて、街づくりや、交通、宿泊施設等のバリアフリー化の取り組みが進められていますが、これらが一過性に終わることの無いように望む次第です。折しも大阪では、ホテル等の宿泊施設におけるバリアフリー化に向けた大阪府福祉の街づくり条例の改正が取り組まれています。私たち、車いすを利用する者にとって仕事や社会活動、余暇等快適さを求める上でも、宿泊施設のバリアフリー化は不可欠です。また、昨年施行されたバリアフリー法に基づく施策の推進や3年を経た障害者差別解消法の検証も求められる年でもあります。引き続き、行政や他団体との連携を進めながら当事者団体として声を上げていきたいと思っております。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

公益財団法人 阪喉会 理事長 上西 洋二



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年はオリンピックがあり、更に大阪は万博を控えその準備もあり、活気ある社会情勢が期待されます。しかし、その殆どが高齢である喉頭摘出者においては、これから更に進んでゆく少子高齢化の社会情勢では一人暮らしや少ない親族という状況に置かれます。この場合、代用音声の習得が無ければ周囲の社会とのコミュニケーションが取れず、自立出来ず引きこもりの暗い生活となります。当阪喉会は、代用音声の発声指導において、70年に及ぶ歴史、体験を持っており、習得希望者の体力、気力、生活環境に応じた指導を行い成果を挙げております。これから代用音声の発声を習おうという方は勿論、習得したがそのレベルをさらに向上しようという方も是非当会の発声教室にお出下さい。健常者と同等さらにそれ以上の発声を可能として、明るい生活を送ろうではありませんか。

新年のご挨拶

公益社団法人 大阪府精神障害者家族会連合会（略称：大家連） 会長 倉町 公之



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。当会は、本年創立50周年を迎えます。近年は、当事者と親の高齢化に伴う「8050問題」などが提起されており、取り組みへ向け決意を新たにしているところです。精神障害者が、障害者として出発したのが遅かったことから、福祉施策においては多くの課題を抱えています。このうち、「重度障害者医療費助成制度」と「交通運賃割引」について、大家連では重点課題と位置づけて取り組んできました。

「重度障害者医療費助成」については、2018年4月から、精神保健福祉手帳1級所持者が初めての対象者となりました。これについては、2018年12月～2019年3月にかけて、「精神障害者の医療に関するアンケート調査」を実施しました。(詳細は「だいかれん」NO. 261号に掲載)

「交通運賃割引」については、昨年12月、近畿2府4県連の会長が、JR西日本へ要望書を提出し、意見交換会を実施しました。

今年も引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

新年のごあいさつ 特定非営利活動法人 大阪府中途失聴・難聴者協会 理事長 橋高 恵子



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

当協会は2月に「災害時、緊急時の備え ～情報入手とコミュニケーションを考える～」のテーマで大阪府中途失聴・難聴者福祉大会を開催します。災害時は初動が生死を分かち、と言われてはいますが、音声情報の入手が難しい中途失聴・難聴者が情報を得て行動する術を考察し、協会内の体制作りと社会や行政に働きかけてまいります。

6月に開設される大阪市東成区森ノ宮の大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターに、これまで大阪府の委託事業として実施していた要約筆記者確保事業と派遣事業の拠点は移ることになりますが、引き続き、中途失聴・難聴者の社会参加促進、意思疎通支援の充実に努めてまいります。

東京パラリンピックの開催を契機にすべての人が暮らしやすい環境づくりが推進されるよう、協会として活動を続けてまいります。今後とも、ご指導とご支援のほどよろしくお願いいたします。

令和2年新春のごあいさつ 大阪府肢体不自由児者父母の会連合会 会長 松並 利行



謹んで年頭のご祝詞を申し上げます。

令和元年は、日本国にとって新天皇をお迎えし、新しい時代の始まりでありました。令和2年、どんな素晴らしい年になるのか期待するところです。

年の初め、障がい児者が望むことは、共に生き共に安心して過ごせる環境、障がいがあってもなかつても共に生きる社会が実現される国づくりであります。

そしてそれは、日本だけでなく、全世界の人々が共に生きることができる平和な社会を人間として考えていかなければなりません。

原子力はもともと人殺しのために作られたものではありません。電力は人間の幸せのためにあるのです。人類が不幸になるために発明されたものではありません。人間を地獄に落とすか、幸せにするのか、使い方によりさじ加減一つで人間の一生は変わることになります。私たちは小さな力ではありますが、人として生きている限り幸せを求め努力精進しなければならないのです。

結びに、本年も健やかな一年であり、関係者各位の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

新年のご挨拶 公益社団法人 日本オストミー協会 大阪府支部 支部長 青野 仁彦



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

輝かしい令和の御代を皆様方と共に迎えられましたこと誠に嬉しく存じ上げます。

昨年は地震、台風、豪雨災害等の自然災害により多くの人命が失われる大変な年となりましたが、本年は災害の無い皆が多幸な年となりますように祈るばかりです。

私達、日本オストミー協会はオストメイト(人工肛門、人口膀胱、造設者)の生活の質の向上(QOL)を目指して日々、研鑽努力致しております。

まだまだ道半ばではございますがこれより先も共に歩み、皆様の心に寄り添えるように、努力して参る所存でございます。終わりに、社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会の皆様、会員皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶 一般社団法人 日本筋ジストロフィー協会 大阪支部長 小林 和美



新年あけましておめでとうございます。

昨年自然災害で大きな被害が生じ、亡くなられた方々のご冥福と、被災された方々の一日も早い復興をお祈りいたします。

私は、昨年4月に日本筋ジストロフィー協会大阪支部長に就任いたしました。若輩者ではございますが、皆様今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

一昨年12月に公開された映画「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」はご存知ですか?第56回日本筋ジストロフィー協会全国大会の講演会に原作者の渡辺一史さんより映画の裏話を伺いました。「障がい者」のイメージを覆す強烈なキャラクターの主人公の介助者とのやりとりや関係を通して、お互いが支えあって成り立っていて、「できない」を「できる」に変えていくバイタリティーは素晴らしいと思いました。在宅での自立生活は、現実的には大変ですが、障がいがあっても楽しんで人生が送れるよう応援していきたいと思っています。

新年のごあいさつ

社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会 理事長 里中 亨



2020年の輝かしい初春を迎え、読者の皆様には、お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。どうか今年一年が、皆様にとりまして穏やかな良き年でありますよう、祈念いたしております。

また、日頃から当協会の運営に格別のご支援とご協力を賜り、この機会に厚くお礼申し上げます。

今年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年でもあります。オリンピックは7/24から、パラリンピックは8/25から始まります。広く障がい者スポーツのことをパラスポーツといい、障がい者を対象にした○○ピックと名のつく大会に代表されます。「デフリンピック（4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催。他の大会も同じ）」・「スペシャルオリンピックス」・「パラリンピック」の大きく3つあり、その一つ「パラリンピック」が今年、日本で開催されます。

昨年（2019/11/16・17）、ビッグ・アイで開催した「第17回共に生きる障がい者展」においても、「体感！パラスポーツ」と称して、車いすバスケットボールの日本代表候補選手によるエキシビジョンと来場者による体験会を実施するとともに、ビームライフル射撃やボッチャの体験会も実施するなどパラスポーツの魅力や醍醐味を存分に発信し多数の来場者で賑わいました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関係づけて、共生社会の実現に大きく寄与すると考えられる「SDGs」と「ユニバーサルデザイン」の二つの理念が持つ意味合いと展望について、私なりに考えてみたいと思います。

まず、「SDGs」についてですが、国連においては、2015年に持続可能な開発目標「SDGs（エスディーゼーズと読みます）」が設定されました。「SDGs」は持続可能な世界を実現するための17の国際目標（ゴール）が設けられており、未来を豊かで活力ある社会にしていく取り組みを進め、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている、いわば地球規模の社会契約です。17のゴールには「すべての人に健康と福祉を」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公正をすべてのひとに」なども含まれています。スポーツも持続可能な世界の実現において重要な役割を担うとされています。スポーツ庁もスポーツの持つ、人々を集める力や人々を巻き込む力を使って「SDGs」の認知度向上については社会におけるスポーツの価値のさらなる向上に取り組んでいます。

次に「ユニバーサルデザイン」です。「ユニバーサルデザイン」とは、「SDGs」に30年先駆けて提唱された理念で、一般的には、文化・言語・国籍や年齢・性別などの違い、障がいの有無や能力差などを問わずに利用できることを目指した建築（設備）・製品・情報などの設計（デザイン）のことです。

国においても、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、障がいの有無等にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「こころのバリアフリー」を推進することや「ユニバーサルデザイン」の街づくりを進めることで共生社会を実現し、障がい者等の活躍の機会を増やしていくため、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が決定されました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、共生社会の実現に向けて取り組む絶好の機会です。単に大会期間中だけでなく世界各地から来日されるお客様のおもてなし、ハード・ソフトにわたる競技の準備・進行を環境美化やまちづくりに繋いでいくこと、また、競技の感動をもとにすべての人に、公平に、やさしく、思いやりの心をもって接していくことなど、共に生きる社会の実現に向け、私たち一人一人がこの機を逃さず一歩一歩行動に移していくことこそが大切だと思います。

今年は「庚子歳」です。十二支では一番目。動物では「鼠」が当てられます。また、植物に例えると種から新たな命が芽生え育ち始める時期といわれます。皆様方にとって、令和二年庚子歳が今までに溜めていたエネルギーを基に新たなスタートへと繋がる良き年になりますよう祈念します。



謹 賀 新 年

令和2年 元旦



社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会

理事長 里中 亨 常務理事 立花 保孝
理事 幸島 淳 理事 小尾 隆一
理事 志磨 規之 理事 森垣 学
監事 中野 昇 監事 西岡 亮輔

大阪ワークセンター 大阪ワーク相談支援センター

ケアハウス・OSAKA 歓の里 歓の里デイサービスセンター 歓の里ケアプランセンター

大阪府障がい者社会参加促進センター 大阪府ITステーション 国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）

大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）

この「福祉広報」は、共同募金配分金を受けて作成したものです。